

揮毫 心寺長老 高口恭行師



2024年9・10月号

号外 2024 9

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり  
発行人：竹村伍郎  
TEL&FAX：06-6779-7222  
http://www.machi-sumai.com/  
uemachi@machi-sumai.com  
〒543-0043  
大阪市天王寺区勝山1-11-29

# 「上町台地」名所図会

第23回

阿倍野墓地  
(阿倍野区)

江戸期の大阪には「七墓めぐり」という風習がありました。盂蘭盆会の夜から翌朝にかけて鉦や木魚を叩きながら七か所の墓を巡るといいうもので、無縁仏の供養により功德を得ることを人々は願ったのです。七つの墓には変遷があるもの、おおむね梅田、南浜、葎原（よしはら）、蒲生、小橋（おばせ）、飛田、千日だったといわれています。明治になり市街地が拡張されるに伴って、七墓を含む多くの墓地は、当時、郊外だった場所へ移された新しい墓地に整理・集約されます。その新墓地のひとつが「阿倍野墓地」(写真左)です。正式には「大阪市設南霊園」といいます。

1876(明治9)年の完成で、明治から昭和にかけて活躍した政治家、経済人、文化人が多く眠ります。なかでも有名なのが大阪経済の基礎をつくった五代友厚でしょう。五代には北海道官有物払下げ事件による負のイメージもありますが、研究が進みまは事件には無関係だったといわれるようになっていきます。他にも、名市長として知られる関一や日本画家の菅楯彦(すがたてひこ)などの墓があります。阿倍野墓地は総面積6.2ha、墓碑の数1万4000。その規模がいかに「大か」はあべのハルカスの展望台から見れば一目瞭然です。南側の下に、筆箱のような細長い四角形がくっきりと浮かび上がっているのがわかるでしょう(写真右)。ぜひ、現地と「空の上」から、大阪の近代遺産とそれに連なる歴史の重みを感じて欲しいものです。



近代大阪を築いた有名人が多く眠る



広大さはハルカスから見れば一目瞭然

中原文雄/写真

1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行/文

1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会(ずえ)とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。  
※「うえまちweb」(https://uemachiweb.com/)連載の「上町台地」名所図会」より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。



相羽秋夫の

## らくご ハローワーク

盗人(ぬすっと)

声高に『打銅盗人』追い払う

第33 職

「盗人が職業なの？」と疑問の向きもあろうが、「盗みを働く」という成句があるように、法律では認められていないが、盗んだ金品で生計を立てている点で、職業の一つに数えることができる。ヌストは、ヌスピトの転化である。ヌストと縮めることもある。泥棒(泥坊とも表記)、盗賊、刑法上は窃盗犯、と言う。

上方落語は盗人、東京落語は泥棒と表現する。ちなみに盗人シリーズには、「打銅(うちがえ)盗人」「追いかけて盗人」「おごろもち盗人」「影法師盗人」「画割(かきわり)盗人」「杭(くい)盗人」「鯉盗人」「甚(しん)盗人」「逆様(さかさま)盗人」「写真屋盗人」「仏師屋盗人」「鋏(びょう)盗人」「へっつい盗人」「眼鏡(めがね)屋盗人」などがある。

家財道具がほとんどない寡(やもめ)暮しの男の家に盗人が入った。物色するも何もないので困っていると、男と顔を合わせ、男は詰問する。盗人の持っている煙草入れや



煙管(きせる)の値段を聞き、高価な品だと分かると、男は盗人に金をせびる。盗人はたまたま逃げ出す。その背中に男が声を掛ける。「おい！打銅(うちがえ)盗人、金銭を入れて腰に巻く袋。財布のようなものを忘れてる」。

盗人が境内に逃げ込むと捕らえられることを免れる、とされる盗人を守護する神を祀る神社がある。千葉県市原市の建山(たてやま)神社、長野県大町市の盗人宮、岡山県岡山市の戸隠宮がそれである。正に「捨てる神あれば拾う神あり」だ。

酒を多量に飲んでも、全く顔にも出ず、様子も変わらない人を「盗人上戸(じょうご)」と言う。酒と甘い物の両方を好む人のことも指す。大阪では、この二刀流を「雨風(あめかぜ)」と呼んでいる。

「盗人の上前(うわまえ)を取る」の諺がある。盗人の盗んだ金品を取ることだが、紹介した断は、この諺どおりだ。

盗人が盗むものは金品だけではないらしい。こんな川柳がある。

盗人猫下女の不在を確かめる。

## NPO法人「まち・すまいづくり」活動報告

お問い合わせはNPO法人「まち・すまいづくり」まで  
TEL:06-6779-7222

### 住まいと暮らしの総合無料相談会

9月14日・10月12日(土)  
10時~12時

弁護士、司法書士、一級建築士、税理士、宅地建物取引士の当法人会員が専門知識を生かし、住まいと暮らしのご相談に応じます。電話またはHPよりお申し込みください。(電話受付は平日10~15時)。

主催：NPO法人まち・すまいづくり  
(市立社会福祉センター指定管理者)  
電話：06-6779-7222  
場所：大阪市立社会福祉センター  
(天王寺区東高津町12-10)  
後援：天王寺区役所

### 第46回うえまち寄席

9月29日(日)14時開演

桂佐ん吉、桂ちようばによる、古典を中心とした落語会です。電子チケット販売サイト「TIGET(チゲット)」からご予約可能です。

場所：心寺南会所天王寺区逢阪2-7  
入場料：前売2500円 当日3000円

### あべのハルカス

### 4階ギャラリー

### 揭示料無料

あべのハルカスタワー館4階の「うえまちウォールギャラリー」では出展作品を募集中です。

10代から年配の方まで、女性に人気のブランドが揃い、人通りの多い4階フロアでプチ個展やイベント告知はいかがですか？現在、揭示料無料キャンペーンを実施中(1ヶ月・設置料別途)。詳細は06-6779-7222(まち・すまいづくり)までお問い合わせください。

うえまち新聞web版もご覧ください。





2024年9・10月号

号外 2024 10

発行：NPO 法人 まち・すまいづくり  
発行人：竹村伍郎  
TEL&FAX：06-6779-7222  
http://www.machi-sumai.com/  
uemachi@machi-sumai.com  
〒543-0043  
大阪市天王寺区勝山1-11-29

# 「上町台地」名所図会

第24回

玉造稻荷神社  
(天王寺区)

『東海道中膝栗毛』はみなさんご存じの旅をテーマとした滑稽本ですが、京・大坂見物とは別に、弥次さんと喜太さんの一番の目的が伊勢参りだったことは意外と知らない人が多いようです。江戸時代、伊勢参りのブームがたびたび起こりました。それは上方も同様で、19世紀の初めの大阪では、玉造を拠点とした商人がいままでいう「旅行会社」を立ち上げます。よりいっそう伊勢参りは盛んになり、起点(集合場所)となった玉造稻荷神社(写真左)も旅人で大いににぎわったといえます。

そんな玉造稻荷神社ですが、第11代の垂仁天皇が創建、物部と蘇我の争いの際に蘇我側の聖徳太子が陣を構え祈願したという伝承が残ります。のち豊臣氏から大坂城の鎮守社として尊崇を受け、秀頼の代には本殿や鳥居の再建などさまざまな援助が行われました。そのため、境内には秀頼の銅像が建ちます。徳川の時代になっても、大坂城の守り神としての地位は変わらなかったそうです。

ところで、玉造稻荷神社を出た伊勢参りの一行ですが、いまのJR玉造駅あたりにあった「つる屋」と「ます屋」という茶屋で見送りの人との別れを惜しみました(写真右は「玉造」軒茶屋碑)。このあと、東に進み暗峠を越えて奈良に、そこから桜井(奈良県)、榛原、奥津、松坂(いずれも三重県)を通過して伊勢に向かったのです。その距離約170キロ。現在、大阪ユースホテル協会が昔と同じ行程を歩いてたどるイベントを開催しています(伊勢迄歩講)。興味のある人は、参加してみてください。



大坂城の鎮守社として尊崇を受けた



ここから東、まずは暗峠を目指す

中原文雄/写真

1948年生まれ。建築工房日想舎 主宰。NPO法人まち・すまいづくり会員。

松本正行/文

1965年生まれ。ライター・編集者。NPO法人まち・すまいづくり会員。

※名所図会(ずえ)とは名所の来歴などを絵も交え紹介したもの。  
※「うまきまちweb」(https://uemachiweb.com/)連載の「上町台地」名所図会」より、みなさまからの反響が大きかったものを、本号外でも掲載いたします。

毛筆を用いて文字を書く造形美術の書道の、歴史は古い。中国後漢期に、紙の発明と筆が改良されて書が盛んになった。その後、魏・晋期に王羲之、王献之父子の活躍によって書道が確立された。中国から日本や朝鮮

◇ 毛筆を用いて文字を書く造形美術の書道の、歴史は古い。中国後漢期に、紙の発明と筆が改良されて書が盛んになった。その後、魏・晋期に王羲之、王献之父子の活躍によって書道が確立された。中国から日本や朝鮮



書道の手習いの先生と大工の頭(かしら)が酒盛りをして寝込んだ。2人の魂が、体から抜け出て遊郭で遊んでいる時、火事が起り、あわてて戻る瞬間に入れ替わってしまった。それから2人の性格が、がらりと変わる。医者に診せると、2人を薬で眠らせて元に戻そうとするが、抜け出した魂を泥棒が見つけて盗む。目覚めないで、清元の文句に「田町へ帰る法印さん」とあるので、魂の呼び寄せに法印に祈禱を頼む。満願の日に、魂でなく泥棒が引き寄せられて「魂返す法印さん」。



相羽秋夫の

## らくご ハローワーク

書道家

第34職

遊離した二つの『魂の入れ替え』劇

に伝わり、この三国で発展を見せた。日本では、平安期に万葉仮名をくずした草書体(仮名文字)が考案され、和風の書道が創始された。京極流・青蓮(ししょうれん)院流・世尊寺流・法性寺流・定家流などの流派が生まれた。書の媒体には、卷子(かんす)・懐紙・短冊・色紙・条幅・屏風などがある。また、漢字の書体としては、篆(てん)書・隸(れい)書・楷(かい)書・行(ぎょう)書・草(そう)書の5体がある。ちなみに西洋にも、文字を美しく見せる「カリグラフィ」と呼ばれる形態が存在する。日本の歴史上に登場した秀でた3人の書道家を「三筆」と呼んで顕彰している。平安初期の三筆は、嵯峨天皇・弘法大師(空海)・橘逸勢(はやなり)である。また、江戸・寛永期は、近衛信尹(のぶたか)・本阿弥光悦・松花堂昭乗である。仮名文字の書道家の三名人は「三蹟(三跡)」という。こちらは、小野道風・藤原佐理(すけまさ)・藤原行成(ゆきなり)を指す。「読み書き算盤(そろばん)」と言って、日常生活で最小限必要な教養の一つである書くこと。恥をかくことだけは慎もう。

## 大人のための

## 文章教室

ライター・編集者 松本正行

漢語が続くと堅苦しい。和語で柔らかく

連日の猛暑でエアコンの需要が高まり、令和になって最大の販売記録に達した。

漢字の多い文章は、賢くみえます。ただ、どうにも堅苦しくてあまり印象はよくありません。典型的なのがお役人の文章で、堅いだけでなく、頭にも入りにくい。「煙に巻く」つもりはないのでしょうか……。例に挙げた文章も、多くの人は堅苦しさを感じると思います。

猛暑の日が続いてエアコンの需要が高まり、令和に入って最も多い販売数になった。

漢字で書く単語には大きく「和語」と「漢語」の2種類があつて、一般的に和語は柔らかく、漢語は堅く感じます。漢語は音読みで、例文だと「連日」「猛暑」「需要」「最大」「販売」「記録」がそれにあたります。これだけ漢語が続くと、堅苦しく感じるのは当然で、例文では「連日」と「最大」を和語に代えてみました。これだけでずいぶん印象が変わります。「増加する」「出現する」などの「動詞十する」は簡単に和語にできます(増える、現れる)。「明白に」などもよく使いますが、「あきらかに」にするだけで印象ががらりと変わります。うまくバランスをとって読みやすい文章を心掛けましょう。

上町台地上にある高津高校出身。新聞社・出版社勤務を経て、現在、Webや雑誌等で活躍中。NPO法人「まちすまいづくり」会員。